

フリーアドレス制を導入、社員のビジネス感覚がアツプ!

アイパックは2019年12月、本社を富山市上野新町から中田に移転新築。これを機にリモートワークを導入した。2階は部署の仕切りを取り払ったオープンフロアで、自席を設けない「フリーアドレス制」を採用。全社員が毎日、違う席で仕事をすることを原則としており、コミュニケーションの向上や業務の効率化などのメリットが生まれている。



フリーアドレスのオープンフロア

働きやすい職場を目指して社屋を移転新築

アイパックは橋やトンネル、プラントなどの検査・解析・コンサルティングを行う。構造物を破壊せずに内部劣化や損傷を測定する技術は、他社の追随を許さない。同社は長年、本社と分室が県道を挟んで建っていたため、業務や機材の管理などに不具合が生じていた。こ

のため5年前、新たに土地を求め、社屋を建設することに。設計にあたり、同社では「社員が健康でいきいきとやりがいをもって働ける会社」「社会に貢献できる会社」を目指し、ITを活用したフリーアドレス制を導入することにした。

引越1年前から計画的な断捨離実施

まずは幹部がリモートワーク先進企業を視察。その後、各部署の若手で「新社屋プロジェクトチーム」を発足させ、フリーアドレス制に必要なITやしくみを構築した。

「最初はそんなことは無理」「自分の机がなくなるのは困る」という声が多かったが、プロジェクトチームの社員が率先して行動するうち、社員の意識が変わり始めた」と荒木総務部長は振り返る。

引越しの1年前には、5S活動をスタート。紙書類の

データ化や物の整理を開始。全員、段ボール箱程度の個人ロッカーに収まる量まで減らした。



紙に頼らない「どこでもオフィス」浸透業務がスピード化

バーテーションのない2階フロアは明るく開放的な雰囲気。社員は毎朝、個人ロッカーからモバイルPCを取り出し、好きな座席を選んで仕事を始める。進行中のプロジェクトチームで集まったり、ITに詳しい同僚の隣に座ったりと、目的に合わせて座席を決めている。

データはクラウド、レンタルサーバーへ移行。社員にはモバイルPC、 아이폰を支給。全てのシステムを刷新し、「どこでもオフィス」と称して、会社以外でも仕事ができるようにした。業務の予定、タイムカードなどの情報をグループウェアなどで管理。意見や要望を共有し、業務改善に生かしている。

「フリーアドレス制を導入して1年。他部署の動きが見えるようになったおかげで、助け合い、効率を考えて働くようになり、一人ひとりにビジネス目線が芽生えてきた」と荒木総務部長。今後も問題点を振り返り、改善に取り組みながら、より快適で誰もが活躍できる職場づくりを進めていくという。



フリーアドレスの環境を際打ち合わせた社員も活発に話している。